

## シグマ研究委員会遮蔽定数ワーキンググループ議事録

日 時 昭和 52 年 7 月 4 日 (月) 13.30 ~ 16.30

場 所 原研本部第 35 会議室

出席者 宮坂駿一, 小山謙二, 大竹 巖, 竹村守雄, 長谷川 明, 佐々木研治,  
川合将義, 伊藤泰義, 松本誠弘

オブザーバー 菊池康之

### 配布資料

- (1) 前回議事録
- (2) LAPHANGAS 検討作業 (松本, 長谷川, 川合委員)

### 議 事

- (1) 前回議事録の確認
- (2) LAHANGAS の整備状況

資料(2)にもとずいて, 現在までの整備状況および今後の予定についての説明がなされた。

ここで討議された諸点は以下の通りである。

- 1° LAPHANGAS, LAPHANO, 川重 LAPHANGAS の 3 つのコードを用いて, Na, Pb,  $^{238}\text{U}$  の 2 次ガンマ線についての比較計算を行なった結果, LAPHANGAS と LAPHANO で 0 ~ 30 % 程度, また重み関数の差による違い 0 ~ 15 % であった。コードが正しく計算しているか否かを手計算等と比較する必要がある。
- 2° 酸素で負の値が出るという話があるので, これを確認する。
- 3° RSIC-News letter に LAPHANGAS の Error についての情報が何回かにわたって出ている。これらの情報が現在原研で入手しているコードで修正されているか否かについてチェックし, 必要ならば RSIC から新しいコードを入手する。
- 4° 9 月上旬までに, LAPHANGAS が完全に作動するよう整備に全力をあげる。  
(東京グループ)
- 5° これが完成した時点で, システムに組込むための作業に入る。この際, POPOP 4, RADHEAT-V3 等の FORMAT と矛盾しないよう LAPHANGAS の I/O FORMAT を整理する。

(3) GROUCH-G 2/G 3 の整備

$^{235}\text{U}$  の共鳴パラメータの処理で dimension が不足することがあり、コードを修正した。

(4) 標準群定数の作成

現在当WGは中性子のデータファイルとして ENDF/B-IV を用いている。これは ENDF/B-IV には中性子データとともにガンマ線データも入っており、遮蔽群定数としてはデータの統一がとれていると考えたからである。

JENDL-1 が使用可能になった現在、中性子データとしてこれを用いた遮蔽群定数の整備に早急に着手すべきであるという意見も強く出された。

W・Gとしては、種々検討した結果、現在 ENDF/B-IV を用いた作業を早く終らせ、引続き JENDL-1 を用いた群定数作成作業に入ることとし、必要なマンパワーの協力を委員に依頼することとした。

注) 群構造: 中性子 100群 (DLC-2 型式)  
ガンマ線 20群 (EURLIB 型式)

散乱の異方性:  $P_5$

(5) 予 算

LAPHANGAS のシステムへの組込みのための I/O 統一作業、テスト計算等に 100 万円程度を遮蔽研究室より申請する。

(保留金の解除)

(6) 次回予定

日 時 9月19日(月) 13.30 ~ 17.30

議 題 LAPHANGAS の整備, その他